

2012年6月
第111号

国民救援会
九十九里地域支部



〒283-0812
千葉県東金市福俵 1-11
戸賀方
電話 & Fax 0475-54-2595

バス旅行で支援物資を持って 被災地宮城女川へ！

今回のバス旅行は日本三景、五大堂や瑞巖寺の松島でした。

4月に救援会独自で東日本震災復興支援コンサートを行い、その収益金やカンパ等でお米、タマネギ、ジャガイモ、Tシャツを持って被災地女川町小乗地区の仮設住宅の方に小分けした袋で届けまして大変喜ばれました。直接被災された方からの話を聞き改めて地震、津波の恐ろしさに身がたまされた思いで自然の驚異を知りました。

地元阿部町議から女川原発は、あと800mくらいで電源装置が水没の危機に遭ったそうでもし...？、福島と同じ被害と思いと原発の廃炉しかないことを痛烈に感じました。

参加者は早朝に大綱兼金を出て高速で一気に女川に向かう強行軍でしたが元気で女川町、石巻市内の現状を知ることが出来ました。復興ほど遠く、家々も壊れたままにでした。

参加者の感想が寄せられました。

★行くくと聞くとの大違い。16m高台の町立病院をさらに2mの津波が押し寄せて来たと聞いてびつくり、病院は避難する所だったのに、病院から見る風景は今も穏やか



な内海。対岸の入り江から津波が押し寄せてきたらしく、段々畑のように家があったのが今は数軒しか残ってない、あんな高い所まで」

★小乗地区住民の方々には津波の時の話はどんなに恐ろしくつらかったか、奥様やお孫さんを亡くなられた方もいます。自分だったらと考えると胸がいっぱいになってしまいました。今は懸命に生きようとしている方に私たちも出来ることで支援を続けたいと思います。」

★女川町阿部議員さん、佐立さんのお柄が本場にすばらしく、日々困っている人のために早朝から夜遅くまで支援活動し

ていることに心から感謝と尊敬の気持ちを持ちました。」

★女川原発があと800mで水没したと聞いてびつくり、女川が水素爆発していたらと考えると「翌日は石巻の大曲地区当時は約一千戸の住宅と3000人の人たちが住んでいたと言うのが荒涼とした廃墟した街へ、見るとこの美しい海に囲まれ、普通の暮らしをしようと思おうと涙がとまらなかつた。今回の旅行は特別意義のある旅でした。」

★参加者33名。宮城女川まで往復1000



仮設住宅を訪問

0キロの旅、車中自己紹介の中で、みんなの問題意識を持って参加しているのを感じました。

女川の仮設住宅を訪ねてお米や野菜、Tシャツを届けから交流をした。津波に流されたときは洗濯機の渦の中

放射線量測定値

マイクロシーベルト/時

高さ約	約1 m	20cm
東金	0.07	
阿武隈 S.A0.67	草むら	0.85
国見 S.A0.57	草むら	0.91
女川	0.08	
石巻	0.055	
相馬	0.300	雨樋下 0.80
安達太良 S.A1.300		



て来り欲し〜』と。。。
大曲浜は3、11当時と被害状況が変わつていなく、息を飲むと言った光景でした。津波の破壊力の凄まじさに唖然とした。震災津波から一年以上が過ぎても復興はまだと感じ、息の長い支援活動が必要だと思つた。」↑独自に会員が測定しました。



で揉まれ
るている
ようだっ
たと表現
されてい
た。奥さん
とお孫さん
を亡く
された男
性に『今
何が欲し
い？』と
誰かが尋
ねると彼
は『奥さん
に戻っ



短歌

福島に近づき増せり放射能値

バス停まる度測りつゆけば

雪残る安達太良山も汚染去さる

智恵子は空に嘆きををらむ

四キロを遡り来し濁流に

堤の大石崩れ残る

集団移転自ら決めし集落とや

一本松のみ残る荒漠

千人余の命失せし大曲浜

残りし家にピアノ倒るる

初めて国民救援会の旅に参加しました。

日頃より被災地、そして被災者の方々に自分として出来ることは、見るこ
と、知ること、お金を落とすこと、そして支援を長く続けて行くこと、なのか
な？と考えていましたが、そんな思いをこの旅が実現しました。

自分の目で、しっかり被災の様子を見ること、知ることが出来ました。石巻で
の一向に進まないガレキの山々。大曲海岸での津波による光景には声も涙出
ず、ただただ呆然とする自分。女川町立病院での20mにも達する津波の水位
に目が釘付けとなり、恐ろしさを感じ、ガイドをして頂いた地元の二人からは、
生の声を聞き、初めて知ることの多さにビックリしました。

しかし、仮設住宅では被災された方々の明るい笑顔、困難に立ち向かい前
へと進もうとする姿、私たちが元気をもらって何か出来そうだと奮い立たせ
てくれました。更に仙台筋弛緩剤冤罪事件での大助さんの御両親にも直接話
を聞き、私の世界が一つ広がりました。有意義な旅をすることが出来ました。』



夜の懇親会に大助さんの御両親が駆けつける
ありがとう。再審を

小乗仮設住宅集会場
に時計2個
贈りました。
交流会で
要望受けまして

